

文書館だより
ふみくら
文庫

第 12 号

2007年10月31日発行

藤 沢 市 文 書 館

Fujisawa city archives

〒251-0054 藤沢市朝日町12-6

電話 0466(24)0171 FAX 0466(24)0172



藤沢カントリー倶楽部にて(昭和10年代前半頃)

【写真解説】この写真は、昭和戦前期に設立されたゴルフ場「藤沢カントリー倶楽部」のクラブハウス前にあった第1ホールで撮影されたものと思われます。このゴルフ場については不明確な部分が多かったのですが、最近コース図が発見され、撮影された場所が推定できました。

しかし戦中・戦後の混乱期のなかで廃止され、現在ではクラブハウスだけが、県立体育センター合宿所「グリーンハウス」として、当時の名残をわずかに留めています。(中村)

(写真)藤沢カントリー倶楽部にて 1

藤沢近代史話 消えたゴルフ場(上) 2・3

古文書の読み方(第12回)解答と解説..... 4

編集後記 4

藤沢近代史話 消えたゴルフ場（上）

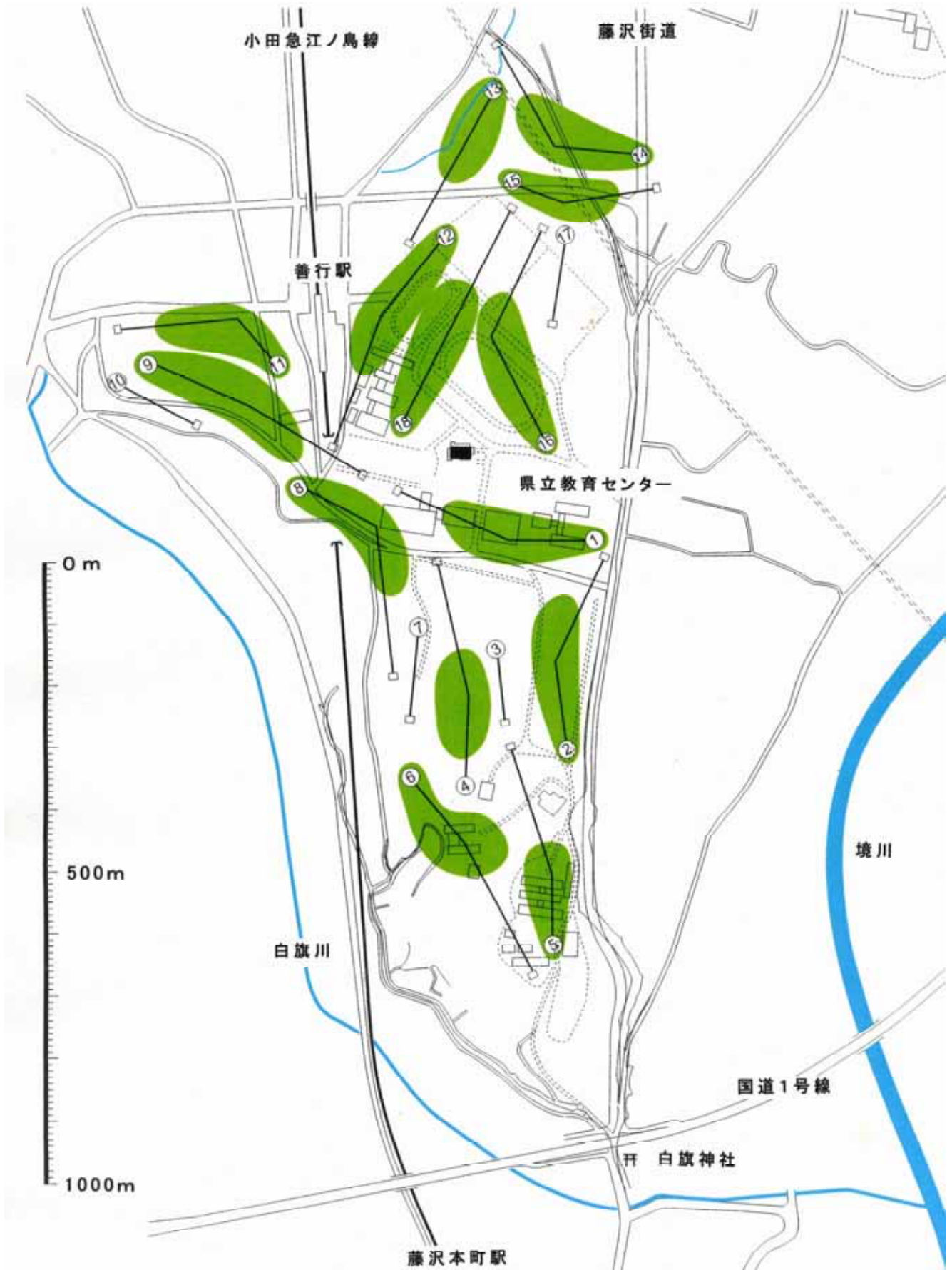
藤沢カントリー倶楽部は、昭和初期の不況対策の一環として設立されたゴルフ場です。今の県立教育センターなどがある場所にあたり、一部のコースは小田急線の善行駅近くのトンネルを越えて展開されていました(3頁の現在の地図と重ね合わせたコース図をご参照ください)。

このゴルフ場は、箱根仙石原や保土ヶ谷とともに、3大ゴルフリンクの一つとまでうたわれたほどです。また、旧町田県道を挟んだこのゴルフ場の東隣には、一時期「メリーゴルフ倶楽部」と名付けられた9ホールの女性専用コースも設けられていたことが、今日残された資料からうかがえます(下の写真2枚を参照)。ちなみにリーフレットに印刷された「藤沢メリーゴルフ倶楽部規程」によれば、この倶楽部への入会金は一人200円、グリーンフィー(ゴルフコースの使用料)は平日1円、日曜祭日が1円50銭となっており、その他練習料がボール30個入り一籠で50銭などとなっていました。昭和9年頃のそば(もり・かけ)の値段が1杯10銭でしたから、庶民にとってゴルフは高嶺の花だったといえるでしょう。(中村)

(参考文献：原田勝正編『昭和の歴史別巻 昭和の世相』小学館、1983年)



メリーゴルフ倶楽部のリーフレットの表紙と周辺の地図（個人蔵）



藤沢カントリークラブゴルフコース図（現状対比図）作図：市川勝典氏、協力：鈴木茂雄氏

解答と解説

「村明細帳」もしくは「村差出明細帳」などの呼称があります。

この文書は、正保2年(1645)、羽鳥村から大住郡中原村(現平塚市)に陣屋のあった代官(中原代官)成瀬氏に差し出された村の概要についての書き上げです。

近世羽鳥村の領主は、初め旗本八屋氏でしたが、寛永10年(1633)に幕府直轄地として中原代官の支配となりました。「当年拾壹年」とあるのは、その年から数えて正保2年が11年目にあたるという意味です。担当者は代官所属の役人手代二宮長右衛門。

羽鳥村は当時「藤沢領」(藤沢大久保陣屋管轄の村々)の一部となっており、

村高は田畠(畑)合計136石6斗2升。後に羽鳥村の村高は新田開発や検地丈量基準の変更等によって240石余に増えています。7行目「当作」は当年度の作付けのこと、ここでは、田畠残らず作付けされていることが記されています。

家数は35軒、内本百姓24軒、水のミ(呑)11軒(「本百姓」は田畑屋敷を所持し、年貢諸役を負担するとともに山野や用水利用、寄合参加など諸権利を持っています。これにたいして「水呑」は無高で、近世初期においては、本百姓に隷属する場合も多く、年貢諸役の負担義務はのがれているものの、本百姓のような諸権利はありませんでした。水を呑む権利だけはあったので「水呑」と呼ばれたという説もあります。ただし、地方によっては「水呑」ではあっても本百姓を凌ぐ経済力をもつ者もありました。)

人数は205人、内男119人、女86人。寺院は禅宗徳昌院。馬数は21疋、本百姓のほとんどが馬を所有していたことがわかります。御林・芝山の面積は、70間×30間=2100歩(=7反歩)。なお、この文書は、当時江戸幕府が「諸国郷村高帳」や「国絵図」の作成を命じておりその関連で提出されたものではないかと推定されており、同様の文書として、県内では津久井郡与瀬村(現相模原市)で作成された文書が残されています(『神奈川県史』資料編6)。



御代官成瀬五左衛門当年拾壹年 手代二宮長右衛門
藤沢領之内 羽鳥村

一 田方九拾三石壹斗七升二合 本田
一 畠方四拾三石四斗四升八合 同
高合百三拾六石六斗二升

一 当作不残仕付申候
一家数三拾五間 (軒) 本百姓廿四間 (軒) 水の三十一間
一 人数貳百五人 内 百拾九人男 八拾六人女

一 徳昌院 寺人 せん宗
一 馬数貳拾壹疋

一 御林(芝)は山 (敷) 但七拾間三拾間御座候
右之外御林もやふも無御座候 已上

正保貳年 とり閏五月

羽鳥村 名主 文三郎 印
百姓 孫右衛門 印
与五兵衛 印

編集後記 本号から近代藤沢における主要な史話を順次掲載します。本号は藤沢ゴルフ場です。戦争によって海軍用地として接收され、藤沢海軍飛行隊の基地となりました。戦後米軍の接收を経て、県の施設や学校用地などとして使用されていますが、往時を偲ぶ遺構はわずかに「グリーン

ハウス」のみとなっています。
なお、文書館では藤沢の歴史を語る関係資料を収集しています。資料をお持ちの方はご一報ください。
最後になりましたが、関係資料をご提供いただいた方々に御礼申し上げます。(石井)